

川村次郎, 陳 隆明, 古川 宏, 林 義孝 (編)

義肢装具学 第4版

森本 茂 (西大和リハビリテーション病院リハビリテーション科)

義肢装具学の教科書の中の教科書

この本の初版出版は1992年である。今回の序文にも「当初、PT、OT用の義肢装具学の教科書がなかったので作成に踏み切った」とあり、編者らの強い志をもって企画された。初版は当時のPT、OTの教育に当たっていた教師陣の待望の書であった。それから17年間で3回の改訂がなされ、今回第4版が出版された。義肢装具関連の書籍がそれほど多くはないなかで、改訂を重ねて行っている書である。つまり長く活用されている歴史のある書籍の待望の最新版と言える。

本文中の“学習のポイント”、“復習のポイント”は授業の進行と理解度の確認に役立ち、特に“復習のポイント”は学生のみならず日ごろの診療に携わる臨床家にも即刻役に立つ。写真・シェーマが非常に多く、理解を助けてくれるだけでなく、勉強の意欲を高めてくれる。キーワード解説も親切である。7つのコラムは、読み物としても楽しめる。

この本の初版からの特徴的な方針は、歩行のバイオメカニズムを大切に解説するところである。歩行運動学の基本がまず述べられている。義肢装具学のほかの書籍も、この様式を手本にしているのではないと思われる。リハビリテーション手技についての説明も多く、特に切断のリハビリテーションについては、1節を割いている。筋電義手については、最新の内容が詳しく述べられている。筆頭編者の「義肢の感覚装置」についてのコラムには特に思い

が込もっている。

義肢装具以外にも、障害者の生活の向上をめざした自助具など生活支援に関する項目が充実している。義肢装具にとどまらず、障害者の生活全体の向上を目標にした教科書であり、車いす・座位保持装置・自助具、生活アシストエイドにもページを割いている。それは、筆頭編者がAssistive Technologyに精通されており、障害者を支援する工学技術の利用応用から、在宅生活、社会生活、障害者のスポーツ用補助装具に至るまで、本来のリハビリテーションの思想に沿って、障害者の生活すべてを含めての援助を考えているからであろう。さらには、義肢装具の材料学についても詳しい。

もともと索引が充実した書であったが、第4版ではさらに索引が充実している。目次、索引ともによくできており、特に索引は類似書籍の中では最も語数が多いと思われる。教科書としてあるいは教科書的に使われるこの書にとって、読者の便をよく考えてくれている。執筆者全員が経験症例豊富であり、そのおかげで写真とシェーマが非常に多く、理解の助けとなる。

義肢装具学の教科書として幅広い範囲をカバーしており、読みやすく、義肢装具学を勉強するためには必読の書である。

(B5判 464頁 定価7,000円+税 2009 医学書院刊)